

二代目が歩いた道

日本将棋連盟 東京都支部連合会

二代目会長 本田昇

東京都支部連合会（以下都連）になった経緯は将棋との出会いから始めようと思います。品川区の非常勤として奉仕、平成 5 年に品川シルバー大学の立ち上げに関与して、うるおい塾の推進員として各種講座の世話を担当、10 回の講座を終了後、運営の方法をアドバイスして自主グループ化に協力していた。その中に将棋講座があり、聞いていて面白いゲームに感じた。講師を努めた品川支部長の運転をしながら師事を受けた。盤・駒を持参して教えてもらった。その一つで将棋会館にも数回お伴した。品川支部の事務局長として将棋会館へ品川支部会員のため、指導員受験申請書を 4 回もらいに行った。さすがに 4 回目となると品川支部は申請書をもらうだけの支部と思われる。誰も受験しないので支部長の了解を得て、ダメもとの心境でしたが、平成 21 年に将棋指導員となった。間もなく連盟の事務方より、東京都に支部連合会がないので、当時の米長会長、西村専務、事務局が入り、数度の打ち合わせの後、11 月に都連創設を迎えた。平成 21 年には女流親睦会「駒桜」が誕生し、普及に協力した。

地元品川区でも副区長と交渉、品川区春季将棋大会に区長杯の冠を受けた。平成 22 年に連盟では公益法人化の申請される中、女流による救命講習会を開催、14 名の参加者で集まり、写真記事となった。平成 23 年には棋道指導員資格と、と金バッジを受ける。3 月にはバス 2 台で女流と歩く浅草散策バスツアーを企画、浅草を後に道場に向かう途中に、大地震に合い、新宿将棋センターに避難、参加者の動向を確認し、午後 11 時に歩いて帰途についた。9 月には徳川 400 年記念免状の巻物推挙状を受ける。10 月には近県の連合会長と女流による、上野池之端の鰻屋伊豆栄で食事と対局の 1 日を楽しんだ。12 月には、クリスマスフェスタ 2011 に協力し、遠方より参加されたが、オークションが好評でした。平成 24 年には棋道師範となる。25 年初代会長中根敏夫氏が他界し、2 代目会長として皆に助けられる。女流親睦会も品川区の「きりあん」で実施して下さり、区長応接室を初めて開放して品川区の女性部長が給仕役でしたので、米長会長が大変喜んでくれた。

都連を立ち上げて終わりではなく、大会を実施することにより都連の存在意識が高くなることを望み、腐心する中、記念すべき第 1 回小学生大会が平成 27 年 5 月に江戸東京博物館で 106 名の参加者を

得て開催。第 2 回目の大会は平成 28 年 5 月に江戸東京博物館で 128 名の参加者があり、第 3 回は平成 29 年 7 月 26 日と内定している。他県の連合会より出遅れを取った分、都連ならではの企画、例えば、全員に参加証、プロ棋士のトークショー、将棋世界の付録、2B の鉛筆、シール等独自のプログラムを用意した。

都連の会員は都内 52 支部と 72 名の将棋指導普及員から組織化された連合体です。都連の会員が知恵を出せば発展の余地あり、第 2、第 3 の大会の開催も始まるでしょう。品川区内の指導員の数は 8 名とトップで、区内 37 小学校中、25 校が将棋教室を実施し、29 年 1 月より、すまいるスクール運営委員の委嘱を受けています。6 校の小学校と二つの会場の運営と 4 か所の家庭訪問と多忙を楽しんでいます。

これまで「駒桜」と共に歩んできたと思いますが、東京都、品川区、将棋連盟、職員、都連の方々に多大な協力を得た事に感謝します。引き立てて下さった、故米長会長、西村九段、関根名誉会長には恩返しができる様に心掛けたいものです。